the Y+T imes

横尾忠則現代美術館ニュース

Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art *NEWS LETTER*

Special Report 開館記念展Ⅱ 横尾忠則展 “ワード・イン・アート”

Event Report
01 記念アーティストトーク
02 記念講演会
03 横尾忠則公開制作

Column
アーカイブ資料について

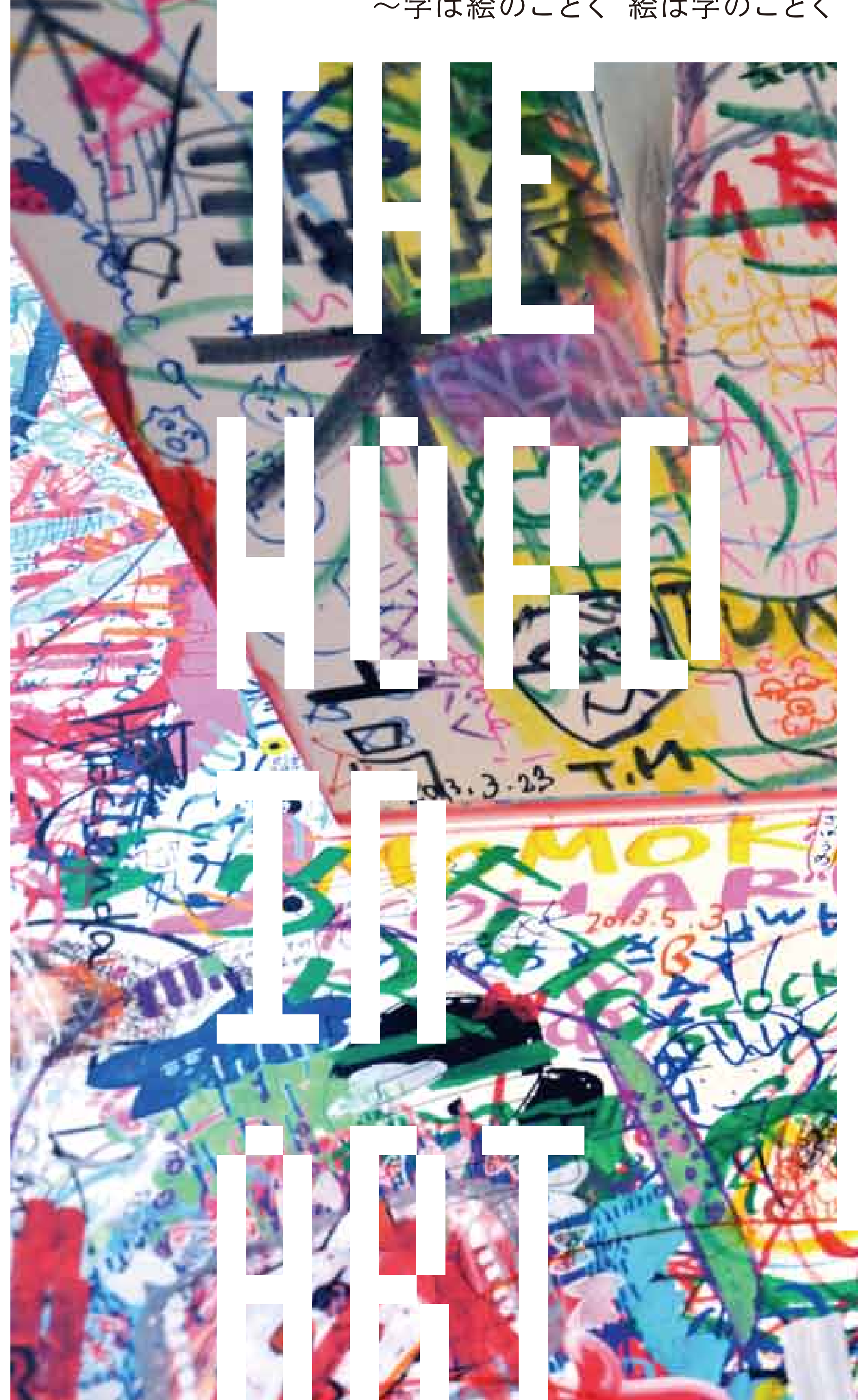
Preview
横尾忠則どうぶつ図鑑
YOKOO'S YOKOO ZOO

Editors' Choice
MUSEUM SHOP・CAFE

Information
次回展関連イベント
兵庫県立美術館
展覧会スケジュール

SUMMER 02 2013.07.10

Special Report 開幕記念展Ⅱ 横尾忠則展
ワード・イン・アート
～字は絵のごとく 絵は字のごとく



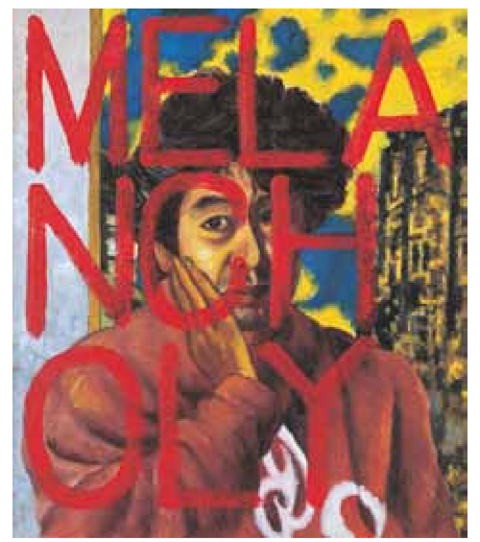
ワード・イン・アート展 ポスター

開館記念展II「ワード・イン・アート」では、横尾さんの作品に描かれた文字に焦点を当てました。1950年代のポスターから未発表の最新作まで、60年に及ぶ横尾さんの画業の中から、文字を含んだ作品74点を精選し、様々なメディアを往還しながら制作を続ける横尾忠則の本質に迫る展覧会です。

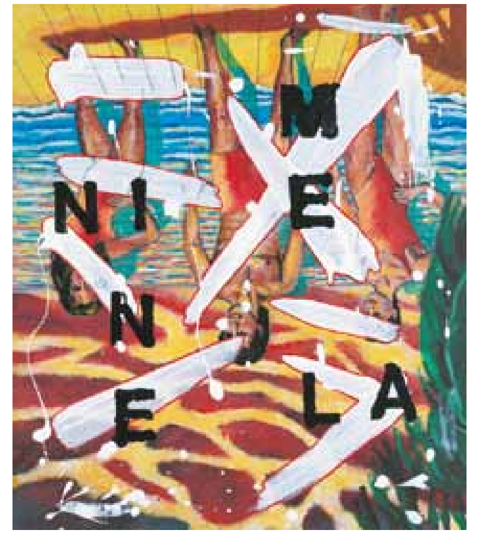
グラフィックデザイナーとしてそのキャリアをスタートした横尾さんのデザインは、前近代性と洗練された要素をあわせもち、国内外から高く評価されています。デザインの場合、人々の注目を集める必要がありますが、広報するための商品と納期があり、発表するための時機を逃すことはできません。一方、1981年に画家への転身を果たした横尾さんは、自己の作品は常に「未完」であると考えています。横尾さんの絵画作品は、グラフィックデザインの仕事と比較して、そこに描かれる文字がおおらかな魅力を持っている所以かもしれません。その作品は時を経て加筆され、今も新たな意味が加えられ続けています。

絵とメッセージに覆われるオブジェ

《メランコリー》2001–2012 | 作家蔵



作品《メランコリー》は横尾さんの自画像ですが、哲学者ニーチェの頬杖をつく有名な肖像写真を彷彿とさせます。10年の時を経て、「MELANCHOLY」(憂鬱)の文字が、全面に大きく書き加えられました。この自画像は、さらにモノクロのストライプにデジタルフォントの文字情報が重ねられて、異なるイメージに転化し、人目を引く「ワード・イン・アート」展のポスターとなりました。作品《メラニン》では、同様に、後年タイトルや白い飛沫が加筆されました。明るく健康的な男女の姿と対照的な、病などを連想させる不吉な効果を生んでいます。このように、横尾作品は常に変わり続け、同じイメージがまるで異なる意味を持つ可能性を孕んでいるのです。



《メラニン》2001–2012 | 作家蔵

また、本展では、横尾作品における文字の多様性に焦点を当て、1.絵のなかのタイポグラフィ、2. 表示する文字/記録する文字、3. 風景のなかの文字、4.メッセージを伝える文字のテーマを通して、そのあり方を検証しました。文字の多様な役割を利用し、絵画の可能性を拡げる横尾忠則作品をお楽しみいただく展示となりました。

《A DOMO DOMO》1986 | 作家蔵

展覧会期間中、来館者は、まず1階オープンスタジオに設置された巨大な立体文字を目にします。本展のテーマは、横尾さんの「絵」の中の「文字」を読み解くことです。これと反対に、展覧会に来られた皆さんに、この大きな「WORD」と「ART」という「文字」の中に「絵」を描いてもらう参加型の作品を設置しました。展覧会初日には、横尾さんも自らいくつかのメッセージを書き込みました。

まだ白い文字のならぶ1階オープンスタジオ

「メッセージを書き込んで下さい。プライベートな誰かへのメッセージでもいいです。絵も歓迎です。それがそのまま作品になります。ビッシリ書いてください。真黒になるほど」(横尾さんのTwitter より)

みなさんの参加によって、この作品は完成に近づきます。最初は白かったオブジェは少しずつカラフルに染まり、今では、最初に書かれた横尾さんの文字を見つけるのが難しいほどです。

小さな子供も手を伸ばして、一生懸命描きます

友達へのメッセージや未来への希望。お腹の中の子供にメッセージを書くお母さん。
展覧会の感想や横尾さんの作品を反復して描く人。様々な世代の方に、メッセージや絵を描いていただき、文字は日々、色づいています。そのひとつひとつには、「神戸の今」が刻みこまれているようです。
展覧会だけではなく、1階オープンスタジオの参加型の作品も通して、文字と表現の可能性について、楽しんでいただけたのではないでしょうか。

橋本こずえ | 本館学芸員

Information 次回展関連イベント

横尾忠則どうぶつ図鑑　YOKOO'S YOKOO ZOO

2013年7月13日〈土〉–9月16日〈月・祝〉

休館日:月曜日[ただし7月15日〈月・祝〉, 9月16日〈月・祝〉は開館, 7月16日〈火〉は休館]
観覧料:一般500(400)円, 大学生400(320)円, 高校生・65歳以上250(200)円, 中学生以下無料
※(　)内は前売料金および20名以上の団体割引料金(高校生・65歳以上は前売なし)
※障害のある方とその介護の方(1名)は各当日料金の半額(65歳以上除く)

記念アーティストトーク
YOKOO'S YOKOO ZOO

講師:横尾忠則・穂村弘(歌人)
7月13日〈土〉 14:00–15:30
会場:当館 オープンスタジオ
※聴講無料(100席・当日先着順)

**動物ってどんな形? 色? 模様?
じっくり観察して描いてみよう!**
「描いてみよう! ぼく・わたしの好きな動物」

講師:当館スタッフ
7月30日〈火〉 10:00–2時間程度
会場:神戸市立王子動物園
対象:小学生から(大人のみの参加も可)
※小学生は保護者同伴のこと
定員:30名　参加費:無料
※保護者、高校生以上の動物園入園には
入園料が必要です
※要予約(詳細はHPなどでご確認ください)

**横尾さんってどんな風に絵を
描いているのかな? まねっこしてみよう!**
「なりきり横尾画伯」

講師:当館スタッフ
8月6日〈火〉、7日〈水〉13:00–2時間程度
会場:当館 オープンスタジオ、展示室
対象:小～中学生　定員:各日20名　参加費:無料
※保護者の展示室入場には、観覧料が必要です
※要予約(詳細はHPなどでご確認ください)

動物のこと、どれだけわかるかな?
「ふしぎ発見!」

講師:山﨑幸雄(神戸市立王子動物園 動物科学資料館)
8月14日〈水〉14:00–1時間程度
会場:当館 オープンスタジオ
対象:小学生　※聴講無料(50席・当日先着順)

美術館の人と作品を見てみよう!
「探険! YOKOO'S YOKOO ZOO」

講師:当館スタッフ
8月10日〈土〉、9月1日〈日〉、8日〈日〉
14:00–1時間程度
※オープンスタジオに集合
※本展覧会のチケットが必要です

記念講演会
「ゾウの長い長いはなし」

講師:木下直之(東京大学大学院人文社会系研究科 文化資源学研究専攻教授)
8月31日〈土〉14:00–90分程度
会場:当館 オープンスタジオ
※聴講無料(100席・当日先着順)

兵庫県立美術館 | 展覧会スケジュール

特別展 | 奇跡のクラーク・コレクション ―ルノワールとフランス絵画の傑作―
6月8日〈土〉–9月1日〈日〉

特別展 | 生誕130年 橋本関雪展 | 9月14日〈土〉–10月20日〈日〉

コレクション展 | 新収蔵品紹介 信濃橋画廊コレクション | 7月6日〈土〉–11月10日〈日〉
| 美術の中のかたち ―手で見る造形 近いかたち、遠いかたち ―岡普司・重松あゆみ・中西學―

※兵庫県立美術館の特別展又はコレクション展の有料チケット半券ご提示で、当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどでご確認ください)

編集後記
当館オープンスタジオに設置した「WORD」と「ART」の文字。
最初は控えめな書き込みでしたが、横尾さんがTwitterで「ビッシリ書いてください。
真っ黒になるほど。」といわれたとおり、上から上から文字や絵が重なり
黒くなっていく様子は見ていて楽しいです。今後もこの美術館の持つライブ感を
お伝えしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。(本庄)

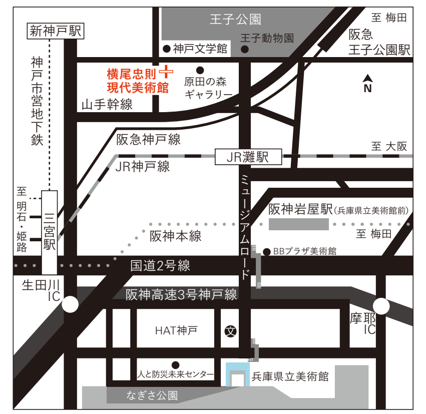
緊急レポート　横尾さんダブル表彰!

この春、当館にとってうれしいニュースが相次いで飛び込んできました。我らが横尾さんに、神戸新聞平和賞、および西脇市名誉市民の称号が、それぞれ贈られることになったのです。

神戸新聞平和賞表彰式 左より奥様の泰江さん、横尾さん、神戸新聞社の高士薫代表取締役社長 ©神戸新聞社

前者は1947年に創設された賞で、優れた業績を挙げた兵庫県ゆかりの個人・団体に贈られるものです。文化賞、社会賞、スポーツ賞のほか、部門をこえた最高賞として平和賞が位置づけられています。
5月11日(土)の表彰式のため、前日から神戸入りされた横尾さん、どうやらスピーチがプレッシャーのようです。「さっき絵に"MURDER(殺人)"とか書いちゃったし、ぜんぜん平和貢献なんかしてないのに。もう帰りたい...」。なんだかんだいっても、本番はユーモアに富んだ名調子で、会場は和やかな雰囲気に包まれました。
一方の西脇市名誉市民は、横尾さんの生まれ故郷である西脇市から、同市にゆかりの深い人物で特に功績の大きい方に贈られる称号です。実は横尾さんは、記念すべき名誉市民第一号なのです。
贈呈式はお誕生日の6月27日(木)に同市で行われます。残念ながら原稿〆切の関係でレポートできないのですが、勝手知ったる生まれ故郷です。親友達にも囲まれて、今回は緊張されることもないでしょう。

山本淳夫 | 本館学芸課長



開館時間
10:00–18:00
(金・土曜日は10:00–20:00)
※入場は閉館の30分前まで

休館日
月曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始
メンテナンス休館

Y+T MOCA
〒657–0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30
Tel: 078-855-5607(総合案内) Fax: 078-806-3888
www.ytmoca.jp

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.2
2013年7月10日発行
編集・発行:横尾忠則現代美術館　印刷:株式会社 大伸社

Preview 横尾忠則どうぶつ図鑑　YOKOO'S YOKOO ZOO

2013年7月13日〈土〉–9月16日〈月・祝〉

《大入満員》1994年｜作家蔵

企画展「横尾忠則どうぶつ図鑑　YOKOO'S YOKOO ZOO」では、横尾忠則の作品に描かれた動物に注目します。横尾さんの作品には、私たちに身近なネコやイヌをはじめ、ライオンやウマ、サルなどの陸の動物、ワニやカメなどの水中の動物、龍やネッシーなど空想上の動物など、たくさんの動物が登場します。それらの動物を種類毎に分け、当館のコレクションを中心に約70点を展示します。

作品の主人公であったり、何かを表していたり、背景の一部であったり、描かれた動物は色んな役割を持っています。そうした動物には横尾さんにまつわるエピソードやメッセージが込められている場合が多々あります。例えば、作品によく登場するライオンやワニは、幼い頃に読んだ冒険物語からの引用です。度々作品に描かれるネコは横尾さんの飼い猫がモデルとなっており、愛猫家ぶりがうかがわれます。

油彩やポスター、版画などさまざまなメディアで描かれた動物を一堂に紹介することで、横尾忠則の動物表現に迫ります。動物という私たちに馴染みやすいテーマを軸にした、大人も子どもも楽しめる展覧会です。

会期中、当館では初の試みである小中学生を中心としたイベントが多数開催されます。親子で楽しめるイベントですので、これを機会に是非美術館に一緒に遊びに来て下さい。

作花麻帆｜本館学芸員補助

Column アーカイブ資料について

アーカイブルーム前景。左手には横尾さん作の「目玉」が…!
（こちらは記念撮影可）

全長70cm程のブリキ缶にびっしりと収められた資料たち。
これから徐々に整理公開が行われます。

当館には、横尾忠則の約60年に及ぶアーティストワークの中で生まれた膨大な作品資料を保存し、整理公開を行うアーカイブルームがあります。世間では断捨離など、身の回りの物を出来るだけスッキリとし、シンプルな暮らしを行うのが流行りですが、アーティストにとっては、自らの愛好する「モノ」を手放すことは、なかなか容易なことではないようです。

横尾さんの場合も例外ではなく、アーカイブルームには、神戸時代（1950年代）から現在までに作家の手元に残されたデザインワークや掲載誌、はたまた個人の蒐集による愛玩品まで、ダンボール箱およそ600箱に及ぶ資料が納められています。中には作品完成までのプロセスが窺える刷り出し見本や校正原稿など、通常であれば手元に残りにくい紙モノまであり、これらは戦後の美術史やデザイン史を考える上においても重要な資料であるといえます。

横尾さんの神戸新聞時代の上司であった長谷正行さんは「彼はどんな小さなカット一枚でも丹念に保存していた。」[1] と当時の様子を回想していますが、様々な経緯を経て作家の手元に残った「モノ」が、神戸から東京へ、さらには再び神戸の地に戻ってきたことは、ある種の運命的な出来事と言えるかも知れません。

当館では、学芸スタッフを中心として、博学連携によるインターンシップなども活用しながら、アーカイブ資料の調査研究・整理公開を順次行なっていく予定です。4階ではガラス越しに整理作業の様子をご覧いただけるかと思います。どうぞ温かい目で（?）進捗を見守っていただけましたら幸いです。

註1……『横尾忠則グラフィック大全』（1989年｜講談社）p.11

井須圭太郎｜本館学芸員補助

EVENT REPORT 01 記念アーティストトーク "絵の中の文字"

2013年3月2日〈土〉14:00–｜横尾忠則現代美術館 オープンスタジオ（1F）

聞き手の服部学芸員

いつもながら軽妙なトークが魅力的です

開館記念展Ⅱ「ワード・イン・アート」のオープンを記念して、横尾さんのトークショーが開催されました。聞き手は、展覧会を企画した服部正学芸員（現：甲南大学准教授）です。

「今日は作品に描かれた文字についてお聞きしたいのですが」と服部学芸員。「先日のツイッターで、その理由について『そーしたいから、そーしたに過ぎない』とつぶやかれていて……質問を考える気力がずいぶん萎えてしまいました（笑）」。

横尾さん自身、ずいぶん文字を描き込んだ作品が多いこと、年代に偏りなく、各時代にそういう作品があることに我ながら驚いたそうです。意図的ではなく、半ば無意識的に絵画に文字が登場しており、その明確な理由は自分でも説明不可能、ということなのでしょう。

若い頃、横尾さんはグラフィックデザイナーとして活躍されていたので、画家に転身して以降も文字を多用するのは当然だと思う方もおられるかもしれません。しかし、絵画とポスターとでは、文字のあり方が全く異なるようです。

「ポスターには、ぼくはなるべくコピーを使わないんですよ。タイトルとか日時とか、客観的な事実しか入れない。だけど絵画の場合は、逆にコピー的な文字を描き込むことがあります」「絵を描いている最中は、なるべく文学性を排除するのですが、仕上げの段階になって、突然文字が登場するんです。自分でもなぜか分からないんだけど」。

「コピー的な文字」といっても、横尾さんの絵画の場合、絵の内容を解説することが目的ではありません。文字が入ることでよりファンタジーが広がったり、作品がユーモラスになったりするのです。「たいへんよくできました」「努力を要す」といったハンコが押された作品などはその典型で、深刻ぶった芸術のあり方に風穴をあけるような清々しさが感じられます。柔軟な精神の遊びを思わせる、横尾さんならではの言語感覚。それは思わず聞き手の笑いを誘う軽妙なトークにも、あらわれていたのではないでしょうか。

山本淳夫｜本館学芸課長

EVENT REPORT 02 記念講演会 "絵の中の言葉たち"

2013年5月18日〈土〉 14:00–｜横尾忠則現代美術館 オープンスタジオ（1F）

広島市立大学芸術学部 准教授 加治屋健司氏

1Fオープンスタジオで講演会を開催しました

美術館では作品をより楽しむために、展覧会に関連した様々なイベントを開催しています。「ワード・イン・アート」展では、雑誌『ユリイカ』2012年11月号に論文「横尾忠則のエクリチュール」を発表された広島市立大学芸術学部准教授加治屋健司氏をお迎えして、横尾作品に描かれた文字についてお話しいただきました。

横尾さんは画家としては類を見ないほど、小説やエッセイなど厖大（ぼうだい）な執筆を行っています。それと同時に、横尾さんは、人生の折々に「休業宣言」「画家宣言」「隠居宣言」を発表することによって、言葉で自らの活動の方向を大きく変えてきました。横尾さんの活動において、文字はとても重要な要素であると言うことができます。

ルネサンス期以降の西洋絵画には文字はあまり描かれてきませんでしたが、印象派の時代になると、文字は再び画面に登場するようになります。モダンアートから現代美術までの絵画作品を中心に、文字を用いた表現の歴史をお話しいただいた後、物体を画面に貼り付けるラウシェンバーグのコンバインペインティング、数字を用いるウォーホルのぬりえの作品、イメージを逆さに描くバゼリッツ、ドイツの文化英雄たちを讃えるキーファー、複数のイメージを並置するデイヴィッド・サーレの作品などと横尾作品を比較することによって、横尾さんの作品に溢れる独創性を浮き彫りにする興味深いお話でした。

橋本こずえ｜本館学芸員

EVENT REPORT 03 横尾忠則公開制作

2013年4月13日〈土〉, 14日〈日〉　5月10日〈金〉, 11日〈土〉｜横尾忠則現代美術館 オープンスタジオ（1F）

オーロラの描かれたキャンバスに詳細を描き込む横尾さん

蓑館長、感謝状を受ける横尾さん、兵庫県知事

横尾さんと突然会場に表れた妹尾河童さん（右）

公開制作初日、神戸市では震度4の地震を観測しました。神戸に滞在中の横尾さんは幸い無事でしたが、気遣うスタッフたちの電話に起こされてしまい、寝不足のまま公開制作はスタートしました。100号のキャンバスに映画のワンシーンを描き始める横尾さん。しばらくすると突然兵庫県知事が現れました。当館の開館にあたり、数多くの作品が寄贈されたことに対して、感謝状の贈呈式がサプライズで行われたのです。その後、自然に横尾さん、県知事、蓑館長によるトークとなりました。

翌日、横尾さんは休憩も取らずに、前日から取りかかった作品を黙々と描き進めました。頭をからっぽにして、ひたすら描き続ける横尾さんと、その姿を見守る私たち。張りつめた雰囲気の会場に、一人の闖入者（ちんにゅうしゃ）がありました。突然横尾さんと固い握手を交わし、会場から颯爽と出て行ったのはグラフィックデザイナーで作家の妹尾河童さんです。横尾さんと同じく兵庫県出身の妹尾さんは、兵庫県立美術館で開催された「冒険王」展で、横尾さんの作品に感銘を受けたそうです。地震、贈呈式、カッパ（?）と数々の予測不能の事態が起こりながらも、100号の絵画を2日で完成に近づけた横尾さん、すごい集中力です！

文字により、作品の印象が決まります

横尾さんの神戸新聞平和賞授賞が決定し、授賞式が2013年5月10日、神戸市内で開催されました。そこでせっかく神戸に来たのだから、ということで予定外の公開制作が急遽開催されることになりました。控え室で熟考の末、作品に文字を加えることに。"I'm wanted for murder anyway…"「どうせ俺は殺人でお尋ね者なんだから…」という不吉な一文は、絵の素材となったハリウッド映画「コルドラへの道」のチラシから引用したものです。決して長くはないフレーズですが、100号のキャンバスに一字一字、計算したかのようにピッタリと書き込まれて行く様子を、会場の皆が固唾を飲んで見守りました。文字が書き加えられると、作品の印象はガラリと変わり、見事に完成となりました。

翌11日、作品はすでに仕上がっていましたが、来場したお客さんのために横尾さん自ら作品を解説し、質疑応答が行われました。横尾さんからお客さんに、とても嬉しいひとときのプレゼントとなりました。

橋本こずえ｜本館学芸員

Editors' Choice MUSEUM SHOP・CAFE

「横尾劇場」はブックカバー３種類付！

MUSEUM SHOP

定休日：休館日に同じ　Tel 078-855-5697

ミュージアムショップ　オススメ書籍

ミュージアムショップでは、ポスターや文具、Tシャツ、関連書籍等多数の横尾グッズを取り扱っています。今回はその中でもおススメの書籍をご紹介します。まずは、演劇・映画・コンサートのポスター画集「横尾劇場」です。《腰巻お仙》や《HEISEI NAKAMURA-ZA》など57年に渡る横尾さんの作品が見られるだけでなく、ブックカバー３種付という遊び心満載の書籍です。次におススメなのが、2012年の歳末公開制作で描かれた《N.P》を表紙に使用した磯﨑憲一郎さんの小説「往古来今」です。ブック・デザインも横尾さんが担当されました。こうして美術館での活動がまた違った形になって行くのは面白いですね。そして、次回企画展「横尾忠則どうぶつ図鑑　YOKOO'S YOKOO ZOO」では、オリジナル絵本が刊行される予定です。絵は横尾さん、文は歌人の穂村弘さんです。横尾さんならではの面白い仕掛けもありますのでお楽しみに！ミュージアムショップは無料ゾーンにありますので、いつでもお気軽にご利用下さい。

原画となった《N.P》は「ワード・イン・アート」展にも展示されています。

「えほん・どうぶつ図鑑」表紙

ぱんだかふぇ

定休日：休館日に同じ　Tel 078-855-7808

ぱんだかふぇの店内。明るく開放的な空間です

季節の野菜のリゾット

永松シェフ

「ぱんだかふぇ」では、旬の食材を使用したランチやスイーツをリーズナブルな価格で提供しています。オーナーの永松シェフはイタリアでの修行を経て、奈良県で「ロアジ」を経営、その後、兵庫県・西宮に移り、数軒のお店を経営されています。中でも「ぱんだかふぇ」はどんな方にも気軽に寄ってもらえる、体に良い食材をふんだんに取り入れたヘルシーな食事が楽しめるお店にしたいという想いがあるそうです。ご来館の折は是非お立ち寄り下さい！

本庄洋子｜本館学芸員補助